

西日本医科学生総合体育大会

2018年8月、三重大学主幹の第70回西日本医科学生体育大会（西医体）で、長崎大学医学部は総合成績3位というとても素晴らしい成績でした。その中でも特に、優勝を飾られました剣道部・ソフトテニス部・弓道部の3つの部活において、主将・部長を務めていらっしゃる方々に、優勝の秘訣・感想についてコメントをいただくことができました。



長崎大学医学部歯学部剣道部
今年8月に三重県で行われました西医体・西コメ剣道競技男子団体におきまして、長崎大学はその両方で優勝することができました。今回のような結果を残すことができたのも、今大会で引退する医学科6年の先輩方と看護4年の同期が一番良い形で引退できるように、日々の稽古に励み続け、また日々の部活を支えてくれた部員全員の努力、そして、常日頃からの外部・OBの先生方のご支援、ご指導の賜物です。今大会を持って引退された先輩方・同期は、プレイヤーとしてだけでなく日々の部活においても中心にいる人たちで、今の剣道部を作った、と言っても過言ではありません。今年の卒業生がいなければ、今年のこのような結果はなかったと思います。当時キャプテンだった私も、様々な点で助けていただきました。先輩方・同期のためにも、今回の結果を残すことができて良かったと思っております。剣道部は現在、次期キャプテンの指揮のもとで、新しい体制で稽古に取り

組んでいます。彼は、私なんかとは比べ物にならないくらい真面目で、先輩方が作り上げてきた剣道部を、さらにいい方向へ持っていつてくれることと期待しています。これからも医学部歯学部剣道部をよろしく願います。

長崎大学医学部ソフトテニス部
今年度の西医体・全医体3連覇に際し、寄稿させて頂くこととなりました。何を書こうか迷いましたが、連覇を達成したこの3年間や部活動について紹介を書かせて頂こうと思います。

3年前、西医体・全医体3連覇が始まる以前も好成績を収める強豪校ではありましたが、大会後の反省では「優勝に王手をかけてもなかなか勝つことができない」という反省が上がるほど、勝負所でなかなか勝ち切る事ができておりませんでした。そこからなぜ3連覇を果たすことができるようになったのか、心技体知の技対知の向上も関係しているかもしれないが、特に心の面での成長が今回の3連覇には大きく影響しているように感じます。どんなスポーツにも共通することだと思いますが、ソフトテニスにおいてもチーム一人一人のメンタルが大きく勝敗を左右します。ミスをしてしまっても、後手に回ってしまっても過言ではないでしょう。今年度は、団体戦に初めて出場する下級生の部員も多く、彼らのデビュー戦とは思えないような活躍がチームを鼓舞し、何度も窮地を救いました。また連覇を目指していく上で、必ず今までのチームの核を

長崎大学医学部弓道部
「西医優勝の感想・秘訣などをよろしくつす」と後輩に言われましたが、ピンと来なくて、つたない文章になってしまいましたが、ご了承くださいます。弓道部のみんな、銀箭のノリで書いてくださったので、

担っていた世代が抜けることがあると思います。大学から新しいスポーツを始める人も多く、そのような初心者の教育やチームの層を厚くすることが必要不可欠となります。この3年間もチーム状況は大きく変化しましたが、暇さえあればテニスコートに足を運び練習に励む下級生、そして長年の経験から得た技術や考え方を部員に還元する上級生により、良い形で世代交代ができていたのだと思います。



ぐびろが丘



編集長
白井真浩 (学友会 広報部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

印刷
株式会社インテックス

お忙しい中、原稿・写真を提供してくださった方々、ほんとうにありがとうございます！



感想ですけど、一言でいうなら「びっくり」です。確かに、今期の各大会で好成績を残してきたので、西医優勝はありえない話ではなかったのですが、優勝の仕方が所謂「サヨナラ満塁ホームラン」であったため、優勝が決まった瞬間はさまざまな感情が押し寄せてきました。そんなとき、その会場にいる多くの人々が長崎大学の射に見入っていることに気づきました。自分はチームに入っておらずとも、自分の友人・先輩・後輩が観客を感動させる射をしていてくれることが本心に誇らしく、うれしかったです。

さて、秘訣は？なんて言われても、初めて優勝した僕らには何も言えないです。ただ思うのは、集団は結びつきにより強くなり、それにはその集団それぞれに合ったやり方があるということです。それは、ミーティングであったり、厳しいルールであったりするので、今期の弓道部は「明るい部であること」こそが正しいやり方だったので、本心に良かったです。

平成最後の長大祭!!!

11月23、24日の三日間毎年恒例の長大祭が行われました。各部活やサークルが店舗をし長大祭を盛り上げます。バンドや吹奏楽、ダンスのステージではたくさんの観客が舞台を楽しんでいました。私自身は部活の大会の影響で二日目からの参加だったため、ゲストのコロコロキチキベッパーズさんや西村ヒロチョさんのステージは見えなかったのですが、ゲストの方がステージに出ているときにはお店にはほとんど人がいなくなるくらいに、ステージに人が殺到していたそうです。

今年度の店は去年と比べて、発想力豊かなお店が多かったように感じました。今年人気のチーズドッグから始まり、窯も準備されたピザ屋さんなどクオリティが高かったです。部活やサークルの特色が生かされていたことはもちろん、ピザの窯を準備していたのは工学部所属の団体だったり、普段大学で学んでいることなどがしっかり生かされているように感じました。

また、長大祭毎年恒例のミスター&ミスコンテストもおおいに盛り上がりました。医学

部からは2年の西川侑志さんと2年中島実咲さんが参加をし、二人とも見事DHC賞を受賞しました。また、中島さんはミス長大グランプリと、ミスキャンパスin長崎のグランプリを受賞しました。2人とも普段接するときから面白く周りを楽しくしてくれ、気配り気遣いができ非常に気立ての良い人達であり、ミスコン準備期間もミスコンを盛り上げるために尽力していたので、結果を聞いて非常に嬉しかったです。来年は医学展があるので、二人から今後ますます目が離せないです！！

今年の長大祭のテーマは「絆」がテーマでした。毎年長大祭には長大生以外の一般の方や、他学校からたくさんの方が来ます。今年の長大祭でも私自身を含めみんなが、たくさんの人との繋がりを実感したと思います。今後も今年の長大祭のように、みんなが楽しめる学園祭が続いていくように各々が学校生活を実りあるものにしていくことが大切だと思います。

海外クリクラ 慶尚大学病院での実習を終えて

6年 山本 侑季

私はこの記事を英語が得意ではなく、私が海外で実習するなんて無理だ、と思っている学生に是非読んでもらいたいと思います。

私が行った慶尚大学は、韓国の普州という釜山からバスで1時間半ほどかかるところにあり、私たちと関わりのあることといえば、文禄の役で豊臣秀吉が攻め込んだところです。

私はここで臨床検査医学、精神科、産婦人科、放射線科を一週間ずつ回りました。

慶尚大学は、今回初めて長崎大学から学生を受け入れたということもあり、手探りなところもありましたが、とても歓迎してくれました。

臨床検査医学と放射線科はレクチャーが主で、多くを私に合わせ英語で行ってくれたため、とても勉強になりました。



秀吉が攻め込んだ晋州城からみた南江

産婦人科では手術や外来を見学し、日本との違いを見ることが出来ました。外来は韓国語で行われますが、一緒に入った学生が英語で説明してくれたため理解することが出来ました。

4つの科の中で一番印象に残ったのは、精神科です。私は精神科に興味があったためこの科を選びました。この科の性質上言葉がわからないのにこの科に行ってきたら大変です。

この実習のメインは閉鎖病棟に行き、患者さんと一緒に過ごすことでした。患者さんとのコミュニケーションを取ればいいのかかわりませんが、実際にやってみると英語を話すことが出来る患者さんが多く、たくさんの人と接することが出来ました。講義以外はすべて閉鎖病棟におり、患者さんと英語で長時間話すのはとても大変で寮に帰る頃にはいつもくたくたでした。今までは患者さんと一緒に過ごすことが出来たことには驚きです。

韓国に来て驚いたことは、どの科に行っても学生が積極的に話しかけてくれることでした。昼休憩が長いときはおいしい韓国料理屋さんに来て行ってくれて、夜も歓迎会やお疲れ様会などを開いてくれました。また川沿いでピクニックをしたり、クライミングにチャレンジしたり、猫カフェに連れて行ってもらったり彼らのおかげで私生活もとても充実していました。私は英語があまり得意ではありませんでしたが、相手も理解しようとしてくれるのでつたない英語でも会話を楽しみ、仲良くなる事が出来ました。会話することをためらわなければ、英語が苦手でもやっていけると思っています。

そして、この大学のおすすめポイントとしては、環境がとても整っていることです。私は初めての留学で右も左もわかりませんでした。ここは大学側が寮を無償で用意してくれ、朝食・夕食もついています。部屋に一通りの家具や電化製品もそろってありました。平日は毎日掃除にしてくれてタオルも補充され、日本より恵まれた生活だったかもしれません。小さな町ですが、



韓国では少しでも時間が空くとコーヒーブレイクしていました。

病院の敷地内にある寮の周辺には、飲食店が多く、スーパーもあり2月に長崎大学に来ていた学生さんが親身になってサポートしてくれました。暮らしに不便を感じませんでした。留学中の暮らしに是非この大学を選んでください。

最後に、このように慶尚大学で充実した時間を過ごせたのは、長崎大学の柳原教授をはじめ、様々な人たちの支えがあったからです。この場を借りてお礼申し上げます。

お元気ですか。帰国してもう二つの季節が降りると、水分をたっぷり含んだ空気がまとわりつきます。まだ夕方には早い時間だが、空は暗い。少し固くなった体をのびのびと伸ばす。雲の厚くなった街を歩く。戦前から戦中に栄えたこの街は、その名残を随所に感じさせる。建物は馬車と中華の要素が混ざって愛らしく、しかし、どこか寂し気な色合いでもある。当時の栄華を表す建物は、時間の経過と、絡みつく木と蔭に覆われ、今や見る影もない。その半分が木に侵食されている家は、じきに全てが木に取って代わられ、朽ちていくのだらう。ゆっくりと、死にゆく途上にある街だった。宿から、水辺へ向かう。街の中心に位置しているその川は、熱帯を飲み込み、流れらしくなくそこにある。川岸には崩れた木製の船着場、廃墟、小さな市場、そして間を覆い尽くすニッパ椰子。日が近くなると、川沿い

お元気がいい。毎日、炎の夕日に包まれていた。肌の色はこんなふうになるものだよ。何日いたって、火に包まれる感覚に慣れることはないの。

その町に行くために、島を繋ぐ橋を渡り国境を越え、さらにバスに乗り北へ向かった。国境近くの町のターミナルを出発すると、じきに建物はまばらになっていき、ぼつぼつと立つ家屋、あとはただひたすらに椰子畑が続く。広大な敷地に整然と並ぶ椰子の木と、木製の小さな家、錆びたホーカーの看板。椰子の葉は、尖り立つ波のよう、遠くまで薄黒い雲と空に



休日に訪れた湿地で有名な順天



産婦人科の教授いち押しの南江のほとりでピクニック

海外クリクラ 新加坡馬来紀行

6年 松尾 光



バトゥバハ川

の屋台に灯りがつき、人々が夕食の準備を始める。ラマダンの夕食前には、小さな街も賑わいを見せ、人々の興奮がゆるやかに熱気となり迎りに広がる。

これ、なに
これ：麺、スープ
おいしい？
おいしい
じゃあ小さいほう
A little.
鍋の蓋があき、ぶわ、と湯気が立ち上る。思わず顔を上げた。焼けた肌とはにかみが、湯気の間から浮かび上がる。頬は屋台の灯りに照らされ、つやつやと光っている。あなたは、どうしてこの街に来たの。珍しい。焼けた肌と、透き通った黒い瞳を持つ彼は、少したどたどしい英語を使った。

知っているでしょう、ここには、特別なものは何もない。屋台の奥は川の手前まで張り出していて、対岸の家屋が少し見えた。雲の重なりがわずかに薄くなった隙間から、今まさに沈んでいく日が、一瞬、

周囲の色を注いだ。あ、燃える。川は徐々に日を受け入れていく。日が落ちた後の川は、熱帯の太陽さえも飲み込んで、さらに深い色となる。日は川に溶けた後、その断片を周りに散らす。対岸の赤と橙の光、詩人の見たカユアピア。眼の奥には、沈んだ夕日の断片がちらちらと揺れる。

宿へ戻り、部屋の大きな窓を開け放し、街の音を耳を澄ませる。放浪の詩人が滞在したこの街、彼の住居は今も際立って美しい。川を見つめながら朽ちていくそのさまも、あつと涼しい風が吹いた、スコールが来る。なぜか、雨の直前の風は水分が少なく、奇妙な爽やかさがある。一つ、二つと地面が染まっていく。空から絞り出すように水が流れた。ごおごおと全ての音を飲み込んで、雨が降る。コーランも、中国風のお祈りも、歌も、車も、街も。空気は水を含んで、体の水分濃度を上回る。あつというまに、浸透しあつて溶けていった。



旧日本人クラブ

海外クリクラ ビュルツブルク大学での実習を終えて

6年 渡辺 華子

私は、高次臨床実習の第3タームを、ドイツのビュルツブルク大学病院の呼吸器内科で行いました。日本の医学はドイツから発展してきたこ

とから、現在のドイツ医療と日本医療を目で見て比較してみたいというこ
と、また内科の勉強をしたいと思いい、ここの実習を行うことに決めまし

た。1か月間の実習の様子や、それを通して感じたことについて書きたい
と思います。

まず、呼吸器内科では、外来・病棟で実習を行いました。ビュルツブルク大学にはComprehensive Cancer Centerがあること
から、肺がん・気管支がん患者さんを多く診ました。日本とは異なり定期的な肺がん検診がな
く、かなり進行した状態で見つかることが多いのが特徴で、数多くの進行肺がん患者さんの診察・治療方針の決定の話合いに参加させて頂きました。

病棟においては、現地の学生と一緒に実習しました。学生は実習することを「work」と言っており、当たり前のように問診・身体診察・静脈採血・ルート確保を行っていました。

問診・身体診察で得た所見については先生に報告し、その後紹介状や画像を見ながらディスカッションを行いました。日本では先生が色々と教えて

てくださるのに対し、ドイツではこの受け身の姿勢は通用しません。自分の知りたいことは積極的に質問し、伝えなければなりませんでした。日本の実習は恵まれていたのだと改めて感じ、同時に、自分が何を学びたいのか常に考えなければならぬと思いました。静脈採血・ルート確保について、一人で難なくこなしており、大変驚きました。他にも、医療行為をする際には先生の介助を積極的に行ったりと、患者さんを安心させる言葉かけを自らしたりと、実習と



ビュルツブルクの景色。メイン川が流れ、ブドウ畑で囲まれた街並みは、とても素敵でした。



学生チューターのJanis Boser君。到着した日、ビュルツブルク駅で歓迎してくれました。留学期間中の生活をサポートしてくれたり、休日には観光に連れて行ってくれたり、とてもお世話になりました。



ルマンで友達と。ルマンでの一枚。とても雰囲気のあるカフェでジブリや漫画の話など。日本フリークの多いフランス。日本人に生まれて良かった、と心から思います。

医学部に留学したので2度目のアンジェ大学留学でした。今回は、耳鼻咽喉科頭頸部外科と放射線科を1か月ずつローテーションしました。耳鼻科は、小児の中耳炎から頭頸部の悪性腫瘍まで幅広く扱っている診療科でした。私は事前に長大耳鼻科でもクリクラを行っていたので、共通点・相違点を感じながら実習を行うことができました。大変有意義でした。外来では、アラビア語しか話せない患者さんを、たまに居合わせたアラブ系フランス人の学生が通訳をしながら、フランス語しか話せない先生が診察をするなど、多民族国家フランスならではの光景にも遭遇しました。放射線科は3グループに細分化されており、教



アンジェの風景。病院から徒歩10分以内でこの景色です。メーヌ川の向こうにアンジェ城と大聖堂を望む綺麗な景色です。川沿いで放課後ピクニックをするのはとても気持ち良かったです。

2018年4〜5月にフランスの西ワール圏に位置するアンジェ大学にて高次臨床実習を行いました。私は3年時に半年間、交換留学生として

授も3人いらっしゃいました。アンジェ大学は小児・胎児MRIの画像診断数が多いそう、胎児MRIを多く見せていただきました。読影中に、他科の先生が気軽にやってきてコンサルトが始まり、白熱した議論のあと、みんなで休憩室でクロワッサンとコーヒードで一息つくのもフランスらしいと思いました。

渡仏してから知ったのですが、5月はフランスも日本と同じく祝日が多く、この時期にバカンスをとる学生も多かったのですが、徐々に割り切って、拙いフランス語でも積極的に質問するうち、充実した実習になったように思います。先輩の皆さんにもぜひ海外でのクリクラ、素

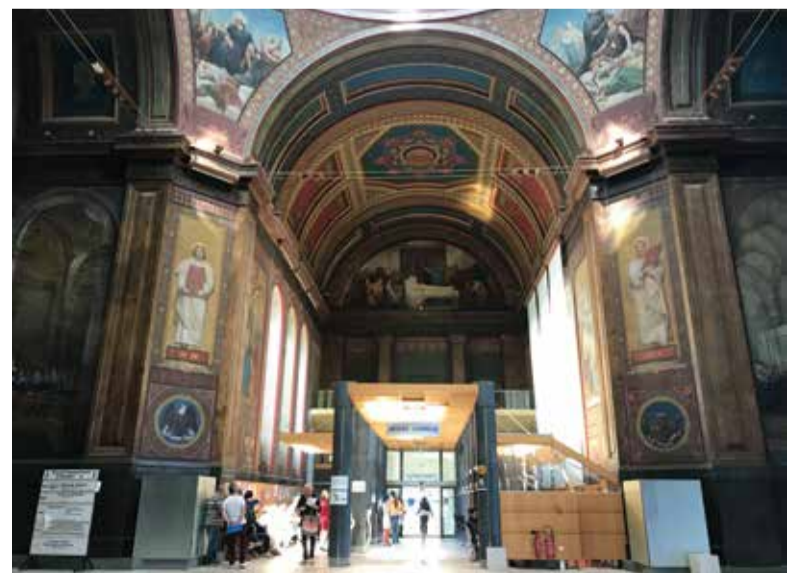
敵なフランス生活を満喫してもらいたいと思います。最後になりましたが、留学にご尽力頂いた酒井先生、学務課の于さんをはじめとする関係各所の皆様に深く御礼申し上げます。

海外クリクラ フランスでの実習を終えて

6年 辻田 啓子



Lehrklinikにて。診察や、採血等の医療手技を練習する建物です。私たちも、病棟実習の合間に現地の学生と一緒に練習しました。



病院外来受付。実は病院の外来受付です。教会が使用されています。とても綺麗で通るたびに壮大さに感動します。

海外クリクラ
LUMCでの実習を終えて

6年 後藤 智哉



LUMCの外観。内部は非常に似通ったデザインでよく迷いました。

私は第3タームの4週間、西ヨーロッパに位置するオランダのライデンという都市にある、Leiden University Medical Center (LUMC) で実習させていただきました。オランダという国自体、国土は九州程度の小さな国で、その中でもライデンは首都アムステルダムから電車で約30分程度のところに位置する人口10万人程度の小さな都市です。しかし、ライデンはオランダ最古の大学都市であり、シボールトがライデン大学で研究していたということから、日本、特に長崎とも所縁のある場所です。また、ライデン大学は世界的にも高い評価を受けており、そういった環境で実習できたことは大変貴重な経験となりました。

今回は、私は胸部外科 (Thoracic surgery) で1か月間お世話になりました。胸部外科は主に心臓血管外科、呼吸器外科、小児心臓血管外科で構成されたユニットでしたが、専門医区分では胸部外科で1つの単位なので、心臓の手術も肺の手術も同じドクターが執刀していました (勿論、サブスペシャリティとしてよりどちらの手術が得意かというのにはある程度です)。これはヨーロッパの中でも特異で、多くの国は日本のように心臓血管外科と呼吸器外科は明確に区分されているようです。実習の1日の流れとしては7:45からLUMCカンファレンス、続けて胸部外科と小児循環器内科との合同カンファレンス、その後基本的に手術を2件見学という流れでした。胸部外科専用のオペ室が4室あり、1日に手術自体は合計7~9件予定されており、朝レジデントの先生とどのオペに入りたか相談するところから1日が始まりました。最も驚いたことは女性医師の多さです。心臓血管外科といえば日本では激務の代名詞で女性が敬遠しがちですが、オランダでは医師も十分な休養やプライベートな時間が取れるように考慮されており、最も忙しいと言われる胸部外科のレジデントでも約半数は女性でした。また、胸部外科を志望している医学生も多く、人気も高いようです。スタッフの雰囲気も大変良く、手術中も教授が何か質問があったら遠慮なくいいよと言ってくれたり、取り出した弁を見せながら説明

してくださったり、また、ある時には、電気生理学の話をしてくださったり大変気さくで教育的でした。ほとんどがオペ室での見学でしたが、1日だけ病棟も見学させていただきました。ここで最も驚いたのは、病棟業務は医師でなくPA (Physician Assistant) と呼ばれる専門職の方が中心に回っていたということです。PAは看護師資格を持った人がより専門的な教育を受けて取得できる資格で、科目の限定はありますが病棟での診断・処方など医師と同等の権限を有しています。さらに、医学生もオーダーができた、議論したりとスタッフの1員として働いていました。また、私が循環器に興味があるという話をしたら循環器内科の見学の用意もしてくださり、そこでは日本ではまだあまり普及していないMitraClipの見学をする

ことができました。LUMCに続き、MRに対するMitraClipなどカテーテル治療の進歩は目覚ましいものがあります。休日はライデンやアムステルダム、他の国へ行ったりして観光を楽しみました。ご存知の通り、ヨーロッパはほとんどの国がEUに加盟しているため人や物の移動が極めて簡単に隣の県に行くような感覚で国境を越えることができ、これがヨーロッパ最大の特徴の一つ面白さだと思います。私も今回の留学中にオランダ寄りのベルギー (アントワープ) とスペイン (バルセロナ) に行ってきました。

今回の留学を通して感じたことは数多くありますが、学生の目から見て日本の臨床は決して世界に遅れを取っていないかと思われました。一方、医学は日進月歩でその発見や新たな技術開発は世界で行われており、最新の知見を入手するためには、日本から世界に発信していくためにも英語力は必須だと実感しました。盲目的な海外への憧憬を抱くのではなく、目的意識をはっきり持つて将来の留学を考えたことができるようになったこと、それを実現するためにどのような能力が必要なのかを知ることができたことが今回の留学最大の収穫でした。

最後に、受け入れを快諾してくださったKlantz教授やLeijnse医師、お世話をしてくださったレジデントのBates医師、担当教授の小路教授、第一外科の大坪先生、そして事務手続き等をしてくださった于さんをはじめとする大変多くの方々に支えられて今回の留学をすることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

最後には、受け入れを快諾してくださったKlantz教授やLeijnse医師、お世話をしてくださったレジデントのBates医師、担当教授の小路教授、第一外科の大坪先生、そして事務手続き等をしてくださった于さんをはじめとする大変多くの方々に支えられて今回の留学をすることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

最後週には術野に入れてもらい、心臓も触らせていただきました。(写真は現地の医学生が記念にと撮ってくれました)



留学にきていた消化器外科と循環器内科の先生と一緒にアントワープへ日帰り旅行させていただきました。貴重なお話を沢山聞けました。

1か月間お世話になりました。胸部外科は主に心臓血管外科、呼吸器外科、小児心臓血管外科で構成されたユニットでしたが、専門医区分では胸部外科で1つの単位なので、心臓の手術も肺の手術も同じドクターが執刀していました (勿論、サブスペシャリティとしてよりどちらの手術が得意かというのにはある程度です)。これはヨーロッパの中でも特異で、多くの国は日本のように心臓血管外科と呼吸器外科は明確に区分されているようです。実習の1日の流れとしては7:45からLUMCカンファレンス、続けて胸部外科と小児循環器内科との合同カンファレンス、その後基本的に手術を2件見学という流れでした。胸部外科専用のオペ室が4室あり、1日に手術自体は合計7~9件予定されており、朝レジデントの先生とどのオペに入りたか相談するところから1日が始まりました。最も驚いたことは女性医師の多さです。心臓血管外科といえば日本では激務の代名詞で女性が敬遠しがちですが、オランダでは医師も十分な休養やプライベートな時間が取れるように考慮されており、最も忙しいと言われる胸部外科のレジデントでも約半数は女性でした。また、胸部外科を志望している医学生も多く、人気も高いようです。スタッフの雰囲気も大変良く、手術中も教授が何か質問があったら遠慮なくいいよと言ってくれたり、取り出した弁を見せながら説明

してくださったり、また、ある時には、電気生理学の話をしてくださったり大変気さくで教育的でした。ほとんどがオペ室での見学でしたが、1日だけ病棟も見学させていただきました。ここで最も驚いたのは、病棟業務は医師でなくPA (Physician Assistant) と呼ばれる専門職の方が中心に回っていたということです。PAは看護師資格を持った人がより専門的な教育を受けて取得できる資格で、科目の限定はありますが病棟での診断・処方など医師と同等の権限を有しています。さらに、医学生もオーダーができた、議論したりとスタッフの1員として働いていました。また、私が循環器に興味があるという話をしたら循環器内科の見学の用意もしてくださり、そこでは日本ではまだあまり普及していないMitraClipの見学をする

ことができました。LUMCに続き、MRに対するMitraClipなどカテーテル治療の進歩は目覚ましいものがあります。休日はライデンやアムステルダム、他の国へ行ったりして観光を楽しみました。ご存知の通り、ヨーロッパはほとんどの国がEUに加盟しているため人や物の移動が極めて簡単に隣の県に行くような感覚で国境を越えることができ、これがヨーロッパ最大の特徴の一つ面白さだと思います。私も今回の留学中にオランダ寄りのベルギー (アントワープ) とスペイン (バルセロナ) に行ってきました。

今回の留学を通して感じたことは数多くありますが、学生の目から見て日本の臨床は決して世界に遅れを取っていないかと思われました。一方、医学は日進月歩でその発見や新たな技術開発は世界で行われており、最新の知見を入手するためには、日本から世界に発信していくためにも英語力は必須だと実感しました。盲目的な海外への憧憬を抱くのではなく、目的意識をはっきり持つて将来の留学を考えたことができるようになったこと、それを実現するためにどのような能力が必要なのかを知ることができたことが今回の留学最大の収穫でした。

最後に、受け入れを快諾してくださったKlantz教授やLeijnse医師、お世話をしてくださったレジデントのBates医師、担当教授の小路教授、第一外科の大坪先生、そして事務手続き等をしてくださった于さんをはじめとする大変多くの方々に支えられて今回の留学をすることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

最後には、受け入れを快諾してくださったKlantz教授やLeijnse医師、お世話をしてくださったレジデントのBates医師、担当教授の小路教授、第一外科の大坪先生、そして事務手続き等をしてくださった于さんをはじめとする大変多くの方々に支えられて今回の留学をすることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

最後週には術野に入れてもらい、心臓も触らせていただきました。(写真は現地の医学生が記念にと撮ってくれました)



レジデントの先生方と記念撮影。1ヶ月お世話になりました。



最終週には術野に入れてもらい、心臓も触らせていただきました。(写真は現地の医学生が記念にと撮ってくれました)



Klantz教授と記念撮影。まさに'Gentleman'というような素晴らしい先生でした。

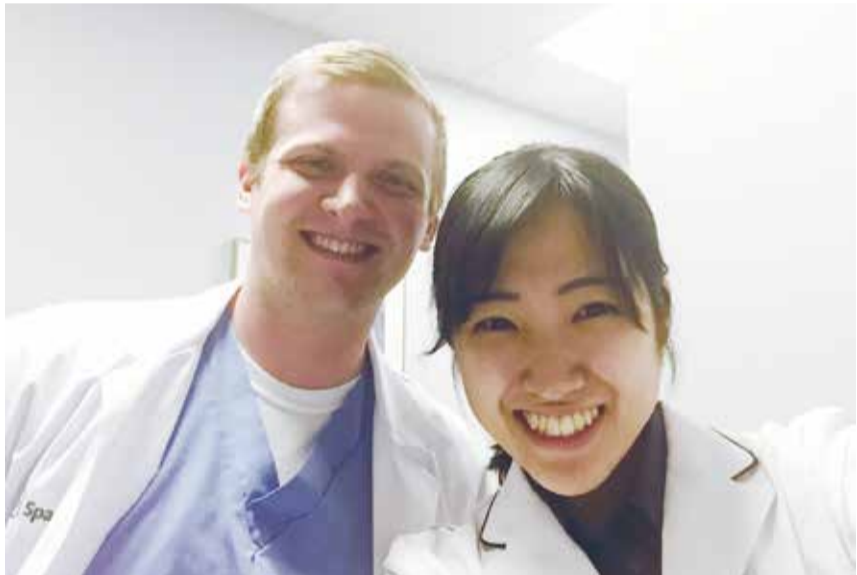
海外クリクラ
アメリカでの高次臨床実習を終えて

6年 西田 千紗

私は、この4月にアメリカ・ミシガン州にある Sparrow 病院にて、1か月間高次臨床実習を行わせていただきました。実習内容としては、Family Medicine (家庭医学)を二週間、Internal Medicine (一般内科)を一週間、Neurology (脳神経内科)を一週間のローテーションでしたが、今回は、日本では、まだ馴染みの少ない、Family Medicine (以下FM)での実習をメインに書かせていただきます。なにか症状が出たとき、日本ではどの科に行くべきかを患者自身が判断し、専門科に直接アプローチしますが、アメリカでは、まず FM でプライマリ・ケア医である Family doctor に診てもらったことが一般的で、その後必要に応じて Family doctor が専門科へ紹介してくれます。FM は、そのようなゲートキーパーの役割を担っていることから、扱う疾患の範囲が広く、驚きまじりの割合、統合失調症、LGBT、悪性黒色腫、心不全、糖尿病、重症筋無力症：実習中に診た疾患を全て書き挙げることはできませんが、新生児から高齢者まで、あまりに複雑でない限りは、全診療科の患者さんをカバーしていました。ひとりの医師が、ひとりの患者の抱える複数の健康問題を包括的かつ継続的に治療しており、この病気を癒すのではなく、この人を癒す科であるという印象を強く受けました。自分の心身の問題を丸ごと理解してくれる医師の



オステオパシー特訓中



お世話になった研修医の先生と

存在を心の拠り所にし、病院に来ることを心待ちにしているような患者さんも見受けられ、そのような医師の在り方は、まさに、全人的医療：だと思えました。また、FM について説明する上で、DO (Doctor of Osteopathic Medicine) の存在は欠かせません。アメリカの医師には、西洋医学を習得した、いわゆる、医師：を意味する MD (Medical Doctor) と、MD と同様の知識に加え、オステオパシー(整骨療法)の技術を習得した DO の 2 種類が存在します。オステオパシーとは、「筋骨格バランスの異常が病気を引き起こす」という考え方のもと、特別なマッサージによって筋骨格系を本来あるべき位置に整えることで、

西洋医学の柱である手術・注射・投薬などを行わずに不調を治す技術です。DO の多くが COM に従事しているため、私も実習中に何度も DO のオステオパシー施術を見る機会がありました。実際に施術してもらったり、やり方を習ったりすることもありました。施術前後で、マッサージした部分の筋肉の張りや硬さが著しく変化し、関節の可動域が広がる様子は、目を見張るものでした。

実習全体を通して印象的だったのは、やはり日本と米国の医療保険制度の違いです。国民皆保険制度を採用していないアメリカでは、そもそも保険に入っていない人が一定数います。(オバマケアによって加入率はある程度上昇しましたが、トランプ政権はオバマケアを一切廃止しようとしているので、その割合は数年後にはまた変わっているだろうとのことでした。)また、仮に入っても、すべての治療に保険が適応されるわけではないので、「保険でカバーされていないから、高すぎて飲み続けられない」と、必要な治療薬を自己中断してしまい、かなり重篤な状態になって運ばれてきた患者さんを見ました。日本では 3 割負担が当たり前で、これまでそれについて深く考えたことはありませんでした。米国の医療に触れることで、その有難みを実感しました。

私は一か月間、病院からバスで 20 分程度の、自然いっぱい田舎にホームステイしました。家の目の前が森だったこともあり、鹿やうさぎ、リスにスカンクなど、たくさん野生動物を、長崎で猫を見かけるのと同じくらい頻度で見ました。病院から帰宅したら、ホストマザーと一緒に料理をしながら、ミシガンの家庭料理やデザートを作りました。日本では 3 割負担が当たり前で、これまでそれについて深く考えたことはありませんでした。米国の医療に触れることで、その有難みを実感しました。



日本では見かけない野生動物にたくさん出会いました

で大興奮でした。現地の文化や食・人々との交流を楽しめることも海外留学の魅力だと実感しました。たった一か月とは思えない程、実習・放課後にも充実し、モチベーションを大きく高めてくれる留学になりました。最後になりましたが、このような素晴らしい実習生活の実現のためにご尽力くださった、柳原先生、学務課の于さん、「巨匠」生をはじめとする関係者、心よ御礼申し上げます。

WELCOME to NAGASAKI !!!

長崎大学医学部が2017年で創立160周年ということで、その記念事業として主に留学生・研究生が数ヶ月間滞在するためのゲストハウスを設立してから早1年が経とうとしています。既に沢山の留学生が利用しているようで、夜は並んだ窓に明かりが灯り、時折楽しそうな声が聞こえてきます。今回は、留学生のうちの一人、今年の秋に長崎大学病院にきてくれた Nezar について特集していきます！

Nezar はイスラエル出身の医学科6年生で、日本の医療制度に加え、文化や歴史にも興味があったため、日本を研修先を選んでくれたそうです。ところで、Nezar は一体どういう経緯で長崎大学にやってきたのでしょうか？彼が利用したのは IFMSA-Japan (国際医学生連盟 日本) における Exchange Program。IFMSA の交換留学プログラムでは、研修先を世界90カ国以上の国から選ぶことができ、配属された診療科で4週間の臨床実習を行います。実は、長崎大学ではこの Exchange Program による交換留学生の受け入れは今回が初めてで、熱帯医学研究会 (熱医研)

が窓口となって、長崎大学病院の熱研内科に協力していただき実現されたそうです！ Nezar は記念すべき第1号だったんですね！ここで一つ、熱帯医学研究会 (熱医研) について少し紹介すると、熱医研は長崎大学の国際医療系サークルで、2つの活動を軸としています。1つ目は、先程出てきた IFMSA-Japan での活動、2

つ目は熱帯医学研究所を通じた海外フィールドワークや学内研修です。この記事を書くにあたって Nezar を紹介してくれた私の友達もこの熱医研に所属しており、夏には1ヶ月イスラエルに短期留学しておりました。既にイスラエルで Nezar と仲良くなっていたようで、今回は迎える側として Nezar に日本を楽しんでもらえる

ようにと奮闘していたようですよ (笑) 日本での交換留学を終えての感想と写真をいただいたのでここに載せちゃいます。 Nezar 自身も英語はまだまだ苦手だとか…。長大生、恐れずに英語に挑戦してみましよう :-)

● Exchange Report

Name NEZAR ALATAWNA

- Please write you impression of your study in your hospital.
It was a great stay here in Nagasaki hospital. I'm really enjoyed to practice in this hospital. It was a new and interesting experience.
- Could you tell us good points and points to be improved about your exchange.
The people were very kind and helpful. I like the warm welcoming. I find you all the time I needed help.
- Please share us you impression about your travel or Japanese culture.
All the time I'm interested in the Japanese culture, Shimabara trip, Tea ceremony, Hakama wearing, all of this activities are wonderful, and makes me love this culture more.
- Please write anything you want to tell us.
Thank you so much for everything. You are an amazing people. Hope to see you again :-)



6年生 勉強部屋

6年生国試勉強頑張っています!!

こんにちは！私たち6年生は、2月9、10日にある医師国家試験に向けて日々頑張っているところです。6年生には、1部屋10～16人くらいの勉強部屋があります。今回は、写真でそれぞれのお部屋の様子を覗いてみましょう！☆



7番部屋のカラフルな扉。国試までのカウントダウン!あと2ヶ月で本番です。



2番部屋。参考書でびっしりの棚です。部屋によってみんな大きい棚を共有したり、それぞれの机に置いたり、それぞれ違って面白いです。左上に何か可愛いのがいますね…?



4番部屋H君の机の上。勉強道具生活用品が整頓されています。勉強ができる人!な机でとても綺麗ですね。



6番部屋の様子です。国家試験まで2ヶ月を切ってみんな黙々と勉強しています。この部屋は窓から浦上天主堂が見えます☆



ここは元バリスタのEさんの机です。勉強部屋に眠気が充満したときみんなに美味しいコーヒーを淹れてくれます。この時期になると勉強部屋で大半の時間を過ごすのでみんないろいろなものを持ち込んでいます。



6番部屋のお菓子スペースです。朝から勉強するために、～時までにこなかつたら罰金!と決めて貯まったお金で部屋にお菓子の差し入れをしてくれる人もいて、常に充実しています。

勉強部屋の使用開始の4月以降、大学病院の医療教育センターの先生方、鳴滝塾の皆様、先輩・後輩の皆さんから、たくさんの温かい差し入れ・激励の言葉をいただいています。皆さんからいただいたものに報いられるよう、そして長年の夢をかなえるため、これからラストスパートをかけてまいります!!あと2か月、自分自身に負けず悔いのないように日々励みます!これからも応援よろしくお願ひします!最後に、写真撮影に快く協力してくれた6年生の皆さんもありがとうございます!



あったかチーズドリア

〇作り方

- ①ホウレンソウ・ベーコンは一口大の大きさに切り、じゃがいもは角切りにする
- ②グラタン皿に白米を盛り、バターを少し散らす
- ③ご飯の上にソースをかける
- ④切った具材をのせる
- ⑤チーズをのせる(多い方がおいしいですが、のせすぎないように注意△中央よせてのせるのがコツです)
- ⑥トースターで約10分!(様子を見ながらベストな時を見極めてください)

材料(一人分)

- | | | | |
|-----------------------------|-----|-----------------|--------|
| 白米 | お好み | ベーコン(ウィンナーでもOK) | お好み |
| バター | 適量 | ぶなしめじ | 袋半分くらい |
| パスタ用トマトソース(ケチャップ+ピザソースでもOK) | お好み | ホウレンソウ | 1本 |
| とろけるチーズ | 2枚 | ジャガイモ | 1個 |

はじめてのレシピシリーズ ♡一人暮らしのお料理♡

みなさん、こんにちは!毎回恒例のお料理コーナー、ここでは毎日を元気に過ごすためにも「誰でも簡単に♡おいしく♡」つくれる料理を紹介いたします!
今年はずっと暖冬だと言われていますが、やっぱり寒いですね。寒いと外に出るのも億劫になりがちですが、そういうときこそ旬な食材を買って栄養価が高く、あったかいものを食べましょう!というわけで、今回は簡単にできるドリアを紹介したいと思います。

編集後記

今回長年の記事を書きました!至らない点ばかりではありますが、来年はもっといい記事を書いて皆さんが読みたくなる記事を書いていきたいと思います! (清原翔徳)

こんにちは。今回は>Welcome to Nagasaki」を担当させていただきました。5年の熊谷です。1月からはいよいよクリクラと言うことで、初っ端から「一外科」と飛ばしてありますが、果たして私は身も凍る早朝に布団から這い出せるのでしょうか?6月は韓国に行くので、その様子を次は記事に書きたいですね! (熊谷知香)

今回初めて記事(西医体)を担当させていただきました!協力してくださった方、ありがとうございます! (富田藍子)

寒さに負けないよう、これからも鼻息荒く頑張ります! (山内翠)

こんにちは、テストが終わってやっと一息つきました。CBTやOSCEが終わわり、いよいよ1月からの実習にわくわくしています。 (白井貴浩)

皆さん良いお年をお迎えください! (松島俊樹)

こんにちは。3年生はようやく試験が終わわり、いよいよサーセミナースタートです!
次回以降、海外リサーチへ行かれた方や、国内で、面白い研究に取り組まれた方などの特集が書けるといいなと思っています。 (金好智子)

とうとうクリクラが始まる年になりました。5年の松島です。6年なんか長いと思っていたのに、残りあと1年と少し、最後の1年は勉強だけでなく、いろいろなことに挑戦して行こうと思います!記事もそのひとつ!頑張ります! (山本侑季)

最後の編集後記になります。二年生から始めて、お料理コーナーの担当や編集長をさせていただきました。大変なこともあったけれど、とても楽しかったです!お世話になりました。たたくさんの方々と読者の皆様、今まで本当にありがとうございました。楽しい思い出を抱いて、国試まで突っ走ります! (和田澄華)

今回は料理コーナーを担当させていただきました。CBTとOSCEが終わって一安心の大熊です。実習が楽しみです。今までも多くの記事を書いてくださった6年生の方々、卒業されるのがとても寂しいですが、これからもぐびろがおか新聞を楽しんでもらえるよう精進していきます!よいお年をお過ごしください。 (大熊伶)

お久しぶりです!
暖冬と言われていた今年の冬ですが、寒くなりましたね。私たち6年生は国試まであと少しとなりました。勉強は大変ですが、友達と教えあったり、ご飯をいっしょに食べたりと楽しいことも沢山あるのを頑張っています!今回は、一部ですが私たちの勉強部屋での日常を載せています!来年の春に笑えるように、乗り越えていきたいと思います! (荻野恵梨)

4月からの長い試験期間を終えて、ほっと一息ついていきます。ここからは冬を楽しみつつ、1月からのリサーチセミナーに向けて大慌てで準備を進めていきます!素敵な冬をお過ごしください! (山内翠)